東京慈恵会医科大学

地域連携看護学実践研究センター

ニュースレター

vol.01
2024年３月発行
発行元：JANP Center
東京慈恵会医科大学
医学部看護学科内
Email:janp@jikei.ac.jp

2023年度の活動

センター長挨拶

東京慈恵会医科大学看護学実践研究センター　センター長　高橋衣

東京慈恵会医科大学看護学実践研究センター（Jikei Academic Nursing Practice Center for the Community：JANPセンター）は、2018年に「地域住民の生きる力を看護の力で支える」ことを目指して設立しました。Academic Nursing Practiceは、看護学の発展とヘルスケアの質の向上を目的とし、教育、研究、臨床ケアの意図的な統合を意味しており、国内外の多くの看護系大学で機能を備え活動しています。JANPセンターは、慈恵第三病院看護部・慈恵第三健康推進センター・慈恵第三看護専門学校、さらに立地を生かし、調布市・狛江の自治体、近隣大学、地域住民の皆さん、在宅訪問看護ステーション等の専門職の皆さんと連携して活動しています。

JANPセンターは、「みんなの学び場」「みんなの活動」「みんなの保健室」の3つの部門と部門を支える「ニーズリソースマッチンググループ」「広報グループ」の2つのグループからなっています。2023年度は以下のような活動を実施しました。2024年度の中心となるテーマは、‘若い世代の健康を支える’ことを目的として、“プレコンセプションケアの推進”です。本学看護学科、看護専門学校、大学院院生の皆さんの参加も大歓迎です。ともにつながりつつ、地域住民の生きる力を看護の力で支えていきましょう。

みんなの学び場

部門長　清水由美子

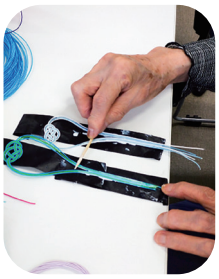
まなび場部門では、地域住民に向けた健康や医療に関する情報発信と学びの場の提供ならびに保健医療福祉専門職のニーズに応える情報発信や学びの支援を活動方針に掲げて活動しています。今年度は、「医療的ケア児とその家族の生活を支える在宅医療」をテーマとする講演会を、前田浩利 氏（医療法人財団はるたか会理事長、あおぞら診療所新松戸院長）を講師に迎えて10月28日に開催しました。まなび場部門では2021年度より、在宅で生活する医療的ケアを必要とする子どもとその家族へのケアについて学ぶ場として「にじいろスマイルの会（小児在宅ケア）」の活動を始めました。本講座はその一環として企画しましたが、2021年に医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）が施行されるなど法的な整備が進む中、医療的ケア児が地域で生活するには地域共生の観点から住民の理解や協力が欠かせないことから、対象を専門職や支援関係者に限定せず、市民公開講座に位置づけて開催しました。当日は医療機関や訪問看護ステーションで勤務する看護師をはじめ、医師や地域の保健福祉関係者の他、関心のある市民の方にご参加いただきました。今後も地域住民や保健医療福祉専門職の学びのニーズに合わせた活動を目指します。

みんなの活動

部門長　梶井文子

大学のｅラーニングによるボランティア掲示板を活用して、教員や学生への調布市・狛江市等のボランティア参加を延15回周知し、教員・学生のボランティア活動の推進につながっています。今年度から、学生へは、科目履修以外で、学生主体にボランティア活動に参加した場合には、「ボランティア活動証明書」を発行することになりました。

東京慈恵会医科大学附属第三病院健康推進センター・狛江市共催の「慈恵ガジュまる教室」には看護専門学校教員と看護学生が、同病院認知症疾患医療センターの「慈恵結びの会」（写真）へも看護学科教員、慈恵第三看護専門学校教員、看護学科学生がボランティアとして多くの方が参加しました。



慈恵結びの会（認知症カフェ）
ご本人もご家族も水引を使って楽しんでいます！

みんなの保健室

部門長　嶋澤順子

みんなの保健室は，身近な場所で気軽に健康相談できる場所として，多摩川住宅内一角をお借りして実施しています。保健師や看護師経験のある看護学科の教員が，簡単なヘルスチェック（血圧や体組成測定，握力測定による体力確認）と健康に関する何でも相談を行っています。健康診断結果の確認，病院受診前の疑問，定期的な健康確認，といった利用があります。赤ちゃんから高齢の方まで，どなたでもご利用いただけます。

2023年度は，多摩川住宅内の「みんなの部屋」をお借りして，概ね月1回で計9回定期的に開催しました。9月は慈恵医大看護学科4年生が実習として実施しました（写真）。2024年度は，多摩川住宅内で場所を替えて定期開催予定です。お気軽に，ぜひいらしてください。

ニーズリソースマッチンググループ

グループ長　志村友理

看護学科の教員4名と医学科教員1名の計5名で活動をしています。今年度は2022年度から研究計画を立ててきた調布市・狛江市在住・在勤者のヘルスリテラシー、健康行動、QOLの横断調査を実施しました。1520名の方を対象に調査の結果をまとめています。今回の研究で20代～30代の若い世代のヘルスリテラシーが低く、コロナ禍を経てQOLについては先行研究とは異なる結果となりました。実施した横断調査の結果については、日本看護学教育学学会第34回学術集会（大会長：東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授　北素子）にて発表予定です。また地域の皆様にもわかりやすく結果をお伝えしたいと思っております。今後、調査結果の概要版をJANPセンターのホームページに掲載を致しますので、もう少しお待ちください。

グループメンバー

プレコンセプションケア

リーダー　松永佳子

「プレコンセプションケアを通じて地域がつながる」ことを目指した活動を開始しました。2023年11月に慈恵大学第三地区（病院、看護専門学校、看護学科）22名の有志が集い、プレコンセプションケアを提供するために「わたしたちにできること」をテーマに学習会を開催しました。また、3月には「若者の未来を支えるためにできること」をテーマに、調布市、狛江市にある大学の保健センターの臨床心理士、中高等学校の養護教諭、保健センター保健師、地域のクリニックの医師や助産師、ドラッグストアの薬剤師などを対象としたプレコンセプションケアの学習会（交流会）を行いました。「未来を担う若者」をどのように支えられるかについて、【資源】の見える化のためのマッピングを行いました。その結果、顔の見える関係を築く一歩となりました。

3月の学習会